



BUSINESS REPORT

いつも となりに
おいしいキョクヨー

第93期 報告書

2015年4月1日 ▶ 2016年3月31日





代表取締役社長 多田 久樹

企業理念

人間尊重を経営の基本に、健康で心豊かな生活と食文化に貢献し社会とともに成長することを目指します。

ご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第93期(2016年3月期)報告書をお届けいたします。

昨年4月、キョクヨーグループは中期経営計画「バリューアップ・キョクヨー2018」をスタートいたしました。

その初年度となるこの一年、グループ基幹工場となる塩釜新工場の完成、家庭用冷凍食品の販路拡大のほか、海外においてはロサンゼルスに営業所を新たに開設するなど、事業拡大に向けた施策を国内外で積極的に行いました。更に西日本における鯉鮪製品生産拠点となる新会社を設立し、生産規模の拡大を図りました。

引き続きキョクヨーグループは「魚に強い総合食品会社として、収益基盤の安定と変化への対応力を高め、新たな価値を創造する企業を目指す」という基本方針のもと、「グローバル戦略」「シナジー戦略」を更に進化させるとともに、お客様目線を意識した付加価値商品を提供するための「差別化戦略」を加えた3つの戦略により、目標達成に向けて邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2016年6月

中期経営計画「バリューアップ・キョクヨー2018」の目標達成に向けて

当期(2016年3月期)の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用環境の改善により緩やかな回復基調を維持しておりましたが、中国をはじめとする新興国の経済減速や年明け以降の急速な円高の進行、株価の下落により企業収益や個人消費の低迷が見られるなど景気の先行きは不透明感が強まっております。

水産・食品業界におきましては、食の安心・安全に対する消費者の関心が一層高まるとともに、販売競争の激化や人手不足・労働コストの上昇に加え、世界的な水産物需要

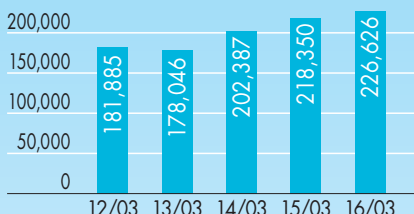
の増大による買付コストの上昇など、厳しい状況が続いております。

このような状況のもと当社グループは、平成27年4月より中期経営計画『バリューアップ・キョクヨー2018』をスタートさせ『魚に強い総合食品会社として、収益基盤の安定と変化への対応力を高め、新たな価値を創造する企業を目指す』ことを基本方針とし、目標達成に向けて取り組んでおります。

主な連結財務指標

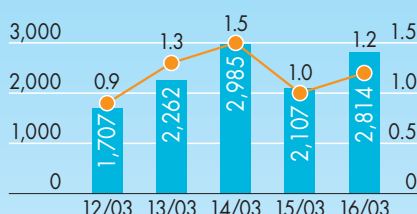
売上高

(百万円)
250,000



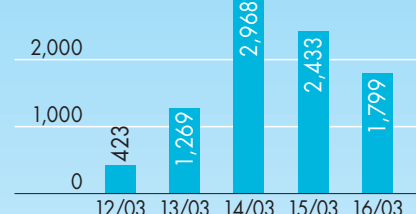
経常利益/売上高経常利益率

■ 経常利益 (百万円) 4,000
● 売上高経常利益率 (%) 2.0



親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)
3,000



その結果、当社グループの売上高は2,266億26百万円(前期比3.8%増)、営業利益は24億33百万円(前期比1.1%減)、経常利益は28億14百万円(前期比33.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は17億99百万円(前期比26.1%減)となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりです。

水産商事セグメントでは、赤魚やカラスガレイなど凍魚加工品が伸び悩んだものの、定塩サケ製品や伸ばしエビ、ムキエビといった付加価値製品の販売が伸長しました。その結果、この部門の売上は前期を上回りましたが、原料価格の高止まりや加工コストの上昇に加え、北洋凍魚の市況変動もあり、利益は前期を下回りました。

冷凍食品セグメントでは、『だんどり上手』シリーズなどの加熱用商品を医療食及び事業所給食向けに、エビやイカなどの寿司種を中心とした生食用商品を大手回転寿司チェーン向けに拡販いたしました。また、白身魚フライやエビフライなどの水産フライやカニ風味かまぼこを量販店の水産・惣菜売り場向けに順調に販売を伸ばしました。市販ブランドである『シーマルシェ』商品を中心とした家庭用冷凍食品は、大手量販店への新規商品導入や販売促進強化に取り組み、焼き魚製品や弁当惣菜製品の拡販に努めました。その結果、この部門の売上は前期を上回りましたが、海外生産部門の不振や海外製品コストの上昇もあり、利益は前期を下回りました。

常温食品セグメントでは、当社グループのまき網船が漁獲した原料を加工したツナ缶などの差別化商品の拡販に努めるとともに、価格改定や商品・販売先の集約等、利益率の改善に努めました。また、海産珍味類は大手コンビニ向け製品を中心に順調に推移しました。その結果、売上・利益ともに前期を上回りました。

物流サービスセグメントにおける冷蔵倉庫事業では、昨年度に開設した城南島事業所を含めた4事業所で在庫貨物の確保を図り、事業の効率化に努めました。冷蔵運搬船事業は、運航している3隻すべてを中南米・ヨーロッパ間のバナナ輸送に配船し、効率の良い運航に努めました。その結果、この部門の売上は前期を下回ったものの、利益は前期を上回りました。

鯉・鮪セグメントにおける海外まき網事業は、入漁料の高止まりの中、燃油価格の下落やドック経費の削減などを進め、エルニーニョの影響による漁獲不振もあったものの、全体としては漁獲量・魚価ともに安定的に推移し、収支が改善しました。加工及び販売事業は、地中海本鮪及びオーストラリア南鮪の取扱いが伸長し、また、ネギトロ、タタキ製品などの加工品を外食、量販店向けに拡販を図りました。養殖事業は、完全養殖魚の沖出し尾数が昨年実績を大きく上回るなど、安定供給体制の構築に向けたノウハウの蓄積が順調に進みました。その結果、この部門は売上・利益ともに前期を上回りました。

次期(2017年3月期)の計画目標

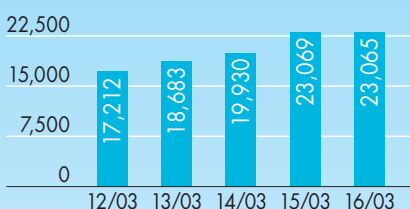
次期におけるわが国経済は、企業収益や個人消費の低迷が見られるなど、不透明感が強まっております。水産・食品業界におきましても、原材料価格の高止まり、加工コストの上昇や企業間競争の激化など、引き続き厳しい経営環境が想定されます。

このような状況のもと、当社グループは中期経営計画

『バリューアップ・キョクヨー2018』の2年目に向けて、新たな気持ちで取り組んでまいります。次期の連結業績は、売上高2,440億円、営業利益35億円、経常利益33億円、親会社株主に帰属する当期純利益21億円を見込んでおります。

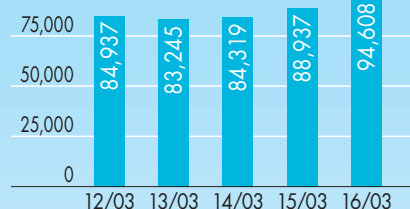
純資産

(百万円)
30,000

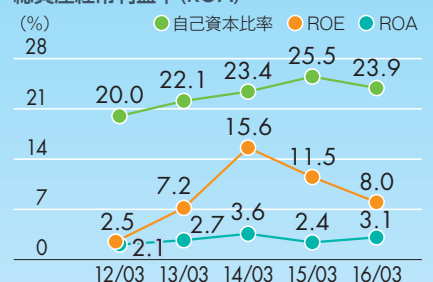


総資産

(百万円)
100,000



自己資本比率/自己資本利益率(ROE)/ 総資産経常利益率(ROA)



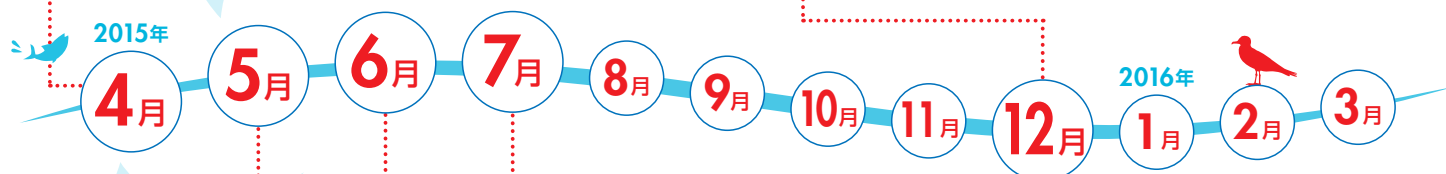
TOPICS 2015.4-2016.3

◎ バリューアップ・キョクヨー2018をスタート

「魚に強い総合食品会社として、収益基盤の安定と変化への対応力を高め、新たな価値を創造する企業を目指す」という基本方針のもと、「グローバル戦略」、「シナジー戦略」を更に進化させるとともに、新たに「差別化戦略」を加えて目標の達成に取り組んでまいります。

◎ 極洋食品(株)塩釜新工場が完成

極洋食品(株)本社工場敷地内に新工場が竣工し、新生「塩釜工場」として完成いたしました。当社グループの基幹工場として、業務用冷凍食品に加え、家庭用冷凍食品の生産を強化し、事業規模の拡大を目指してまいります。



◎ Kyokuyo America Corporation ロサンゼルス営業所を開設

北米最大のアジア系人口を抱え、多くの日系水産問屋が本社を構えるロサンゼルスにおいて、当社グループが得意とするきめ細かい顧客対応を実施し、生食用を中心とする当社製品の海外での販売拡大を目指します。

◎ コーポレートサイトを 全面リニューアル

一般消費者、株主、投資家の皆様やお取引先様、就職活動中の方々に向けて、情報を充実させ、見やすく操作性を向上させたものに全面的に刷新いたしました。当社商品を使用したレシピなども掲載し、スマートフォンにも対応したものとなっております。

◎ 指宿食品(株)を設立

海外まき網船の水揚げ地が焼津の一極集中から、九州枕崎並びに山川地区への分散化が進む中、鹿児島県指宿市の山川地区に冷凍カツオタタキを中心とする水産物加工品を製造する指宿食品(株)を設立し、西日本への供給力増強を図っております。

CSR 環境保全・社会貢献活動

● 海のエコラベルへの取り組み

当社グループでは、水産物の持続的な利用を目指して2006年よりMSC認証に取り組んでいます。2014年からはMSCの養殖版であるASC認証にも取り組み、(株)極洋をはじめ、国内3工場、海外3拠点で、流通、加工工程に関わるCoC認証を取得しています。(2016年3月現在)

2015年11月には、MSC本部のグローバルコマーシャルディレクターのニコラ・ギシュー氏らが来社し、当社多田社長、村上専務と会談しました。海外でのMSC認証状況などが話題となり、多田社長も、当社のまき網事業での認証取得の可能性や2020年東京オリンピックでの認証食材供給など、今後も前向きに取り組みを継続していく方針を話しました。

※MSC認証とは、持続可能で適切に管理された漁業とその漁業で獲られた水産物を扱う流通・加工業者を認証する制度です。ASCはその養殖版にあたります。



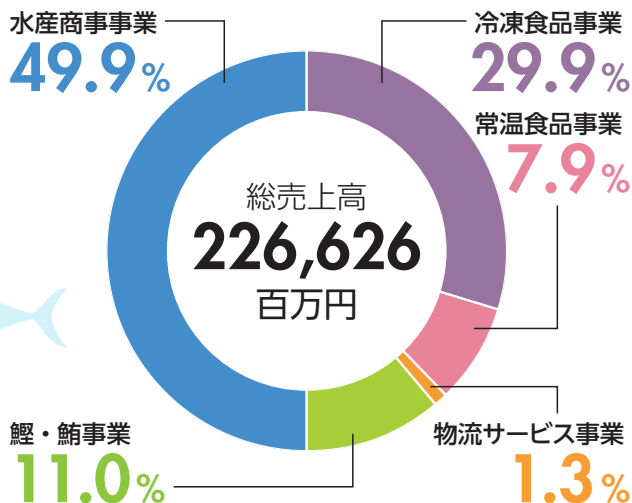
左から、ニコラ・ギシュー氏、アジア太平洋ディレクターのパトリック・カロ氏

● 社会・環境報告書 2015発行

2015年9月に「極洋グループ 社会・環境報告書2015」とそのダイジェスト版を発行しました。食品会社に共通する安心・安全や食文化への貢献、低炭素社会、資源循環型社会、生物多様性の5つの取り組みテーマについて、2014年度を中心とした活動・成果をご紹介します。



セグメント別売上高構成比

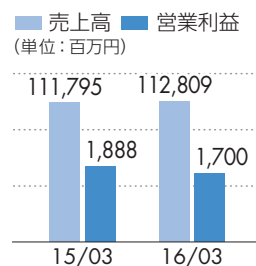


水産商事事業

- 売上高 112,809 百万円
- 営業利益 1,700 百万円

国内外の支社、営業所、駐在員事務所、関係会社の相互連携により、世界の海から質の高い水産物を安定的に調達するとともに、切身製品やカニ、エビの剥き身製品などを提供しています。

また、日本国内で漁獲された魚介類の輸出や三国間貿易を積極的に行い、水産物の有効利用と資源循環型社会の実現に努めると同時に、魚食のグローバル化へも対応しています。



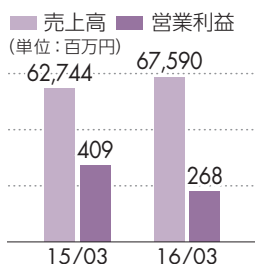
定塩紅鮭フィレ

冷凍食品事業

- 売上高 67,590 百万円
- 営業利益 268 百万円

寿司種を中心とした生食用商品を回転寿司チェーンなどへ販売しているほか、業務用加工品「だんどり上手」シリーズや煮魚、漬け魚などの加熱用商品を高齢者施設や宅配向けに販売しています。

また、水産フライ類やカニ風味かまぼこをはじめ、畜肉製品や冷凍野菜などを外食ルートや量販店惣菜売場向けに販売しています。家庭用冷凍食品は「シーマルシェ」ブランドのもと、首都圏を中心に大手量販店での販売が拡大しています。

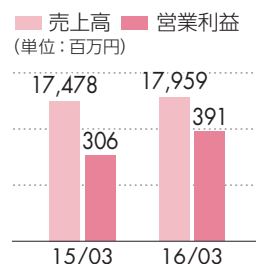


だんどり上手 さばみりん焼き(骨なし)

常温食品事業

- 売上高 17,959 百万円
- 営業利益 391 百万円

1949年の缶詰製造から始まった長い歴史を持つ事業です。現在ではカツオ、サケ、カニなどの魚介缶詰のほか、畜肉缶詰なども取りそろえ、「シーマルシェ」ブランドの商品もラインアップして製品力の強化を図っています。また、グルコサミンやDHAなどの健康食品、海産珍味類も販売しています。

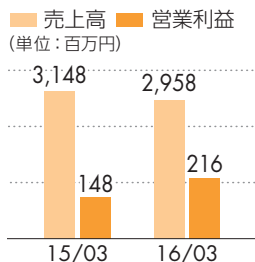


(左)かみそ(かに肉入り) (右)DHA・EPAプラスクリルオイル

物流サービス事業

- 売上高 2,958 百万円
- 営業利益 216 百万円

冷蔵倉庫事業と冷蔵運搬船事業から成り、冷蔵倉庫事業は東京の大井及び城南島、大阪、福岡の4事業所体制で行っております。冷蔵運搬船事業は主にバナナや野菜類の輸送を行っています。



冷蔵運搬船

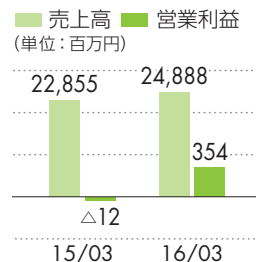


キョクヨー秋津冷蔵(株)城南島事業所

鯉・鮪事業

- 売上高 24,888 百万円
- 営業利益 354 百万円

カツオ、マグロの漁撈・養殖から買付・加工・販売までを一貫して手掛けています。カツオについては、当社グループ所有のまき網船「わかば丸」など独自の調達力があります。マグロについては、限りある水産資源の保護と安定的供給のために、四国で養殖事業を展開し、オリジナルブランド「本鮪の極」はお客様から高い評価をいただいています。また、天然稚魚に頼らない完全養殖魚も順調に成育しております。



本鮪の極

● **会社概要** 2016年3月31日現在

| | | | |
|---------|--------------------------------|-----------|-------|
| 社名 | 株式会社 極洋 | | |
| 英文社名 | KYOKUYO CO., LTD. | | |
| 本社所在地 | 〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号 | | |
| 設立 | 1937年9月3日 | | |
| 資本金 | 56億6千4百万円 | | |
| 主要な事業内容 | 水産物の輸出入・国内買付販売、加工食品及び冷凍食品の製造販売 | | |
| 従業員数 | 2,249名(連結) 599名(個別) | | |
| 連結対象会社数 | 25社 | | |
| 役員 | | | |
| 代表取締役社長 | 多田 久樹 | 取 締 役 | 天利 均 |
| 代表取締役専務 | 今井 賢司 | 取 締 役 | 酒井 健 |
| 専務取締役 | 村上 吉男 | 取 締 役 | 青木 宏行 |
| 常務取締役 | 上居 隆 | 取 締 役 | 三浦 理代 |
| 常務取締役 | 雲津 雅行 | 常 勤 監 査 役 | 中山 昌生 |
| 常務取締役 | 井上 誠 | 常 勤 監 査 役 | 芥川 淳 |
| 取締役 | 松行 健一 | 監 査 役 | 村谷 育雄 |
| 取締役 | 矢澤 久和 | 監 査 役 | 首藤 健治 |

● **株主優待のご案内**

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的として株主優待制度を実施しています。

株主優待の内容

対象株主

基準日(3月31日)現在で当社株式1単元(1,000株)以上所有の株主様

優待の内容

5,000円相当の当社製品贈呈 **贈呈時期** 7月予定

※平成29年については、平成28年10月1日付の単元株式数の変更及び株式併合を契機に見直しを検討しております。

● **株主メモ**

| | |
|----------------|--|
| 事業年度 | 4月1日～翌年3月31日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 定時株主総会基準日 | 3月31日 |
| 期末配当金基準日 | 3月31日 |
| 公告方法 | 日本経済新聞 |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| および特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711(フリーダイヤル) |

(ご注意)

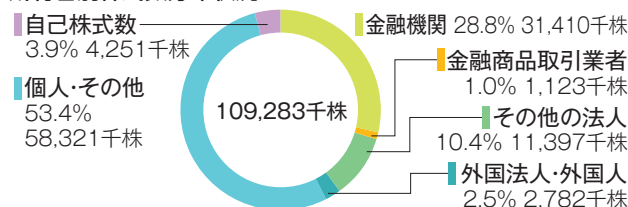
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

● **株式の概況** 2016年3月31日現在

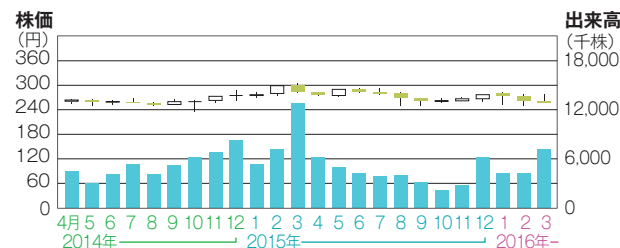
| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 437,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 109,282,837株 |
| 株主数 | 35,036名 |
| 大株主 | |

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|----------------------|---------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 | 7,845 | 7.17 |
| 株式会社りそな銀行 | 5,234 | 4.78 |
| 農林中央金庫 | 5,234 | 4.78 |
| 三井住友海上火災保険株式会社 | 4,501 | 4.11 |
| 東洋製罐グループホールディングス株式会社 | 3,150 | 2.88 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 2,245 | 2.05 |
| 極洋秋津会 | 1,629 | 1.49 |
| 中央魚類株式会社 | 1,399 | 1.28 |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 1,215 | 1.11 |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 1,200 | 1.09 |

所有者別株式数分布状況



株価及び出来高の推移



WEBサイトのご案内

キョクヨーのこだわりや企業情報、商品紹介、IR関連などの最新情報を掲載しております。また、皆様からのご意見やご質問など当社に関してのお問い合わせをお受けする入力フォームも用意しておりますので、是非ご活用ください。



<http://www.kyokuyo.co.jp>

キョクヨー

検索